

子版
co.jp
ページから

日刊みなと新聞

8月22日 木曜日
2013年 (平成25年)

発行所
みなと山口合同新聞社◎
〒750-8506 下関市東大和町1丁目1-7
☎083(266)3214 土曜・日曜・祝日休刊

Cells Alive System CASエネルギーで新鮮さをそのままに

CAS 流通革命
お持ちの凍結庫に付ければ解凍時のドリップなし

(株)アビー CAS研究センター TEL 04-7137-9131



同フォーラムはオレゴン州立大より身スクールが20〜21日の2日間行われ、初日は米国や日本をはじめ、南米、東南アジア、欧州のすり身やねり製品生産者が各地域の需給動向を発表した。

世界各地から16人が需給動向を発表した

初期に各種すり身の供給傾向を説明。米、日のスケソウすり身生産は09年から回復傾向にあるとし、13年は米国が前年比3000ト増の17万トと推定。日本は1万ト減の5万ト。ロシアは5000トを見込み、トータル生産量は7000ト減の22万トと推定した。パンフィックホワイティングは前年並みの2万ト。ミナミタラおよびホキすり身は600ト減の1万ト、欧米のブルーホワイティングは500ト増の4000トとした。

同フォーラムはオレゴン州立大より身スクールが20〜21日の2日間行われ、初日は米国や日本をはじめ、南米、東南アジア、欧州のすり身やねり製品生産者が各地域の需給動向を発表した。

同社長はこれらをまとめ、「今年の世界すり身生産量は前年に比べ約10%減となる。昨年から越年在庫が消化すればすり身供給不足となり、価格が上昇に転じよう。今年第4四半期から来年第1四半期がめどではないか」との見方を示した。

中国や東南アジアのすり身生産量は各国とも前年割れを見込む。特にベトナムの生産が大きく落ち込み、トータルで7万3600ト減の50万3000トと推定。チリのアジアすり身の生産は依然見込めず、モロッコでは新たにイワシすり身1000トの生産を見込む。

フォーラムで見通し

・ゲニユグス社長は20日、東京都内で開かれた第2回すり身フォーラム日本で今年の世界すり身需給見通しを発表した。(7面に関係記事)

2013年の世界すり身生産量は推定79万トと前年比8%減となりそうだと。フューチャー・シーフード社(本社・フランス)のパスカル

世界すり身1割減産79万ト

・仏フューチャー・シーフード社長 年末にタイト感

上回っており、中国や日本で消費が進む年末に格が40%安、欧州価格なども20%安となり、「B」と予測。今年前半は越年在庫と不安の影響からAシーズンのアラスカ

上回っており、中国や日本で消費が進む年末に格が40%安、欧州価格なども20%安となり、「B」と予測。今年前半は越年在庫と不安の影響からAシーズンのアラスカ

すり身市場 転換期へ

今年世界のすり身生産が80万トを割り込む見通しとなり、「世界のすり身市場は転換期に近づいているのでは」と指摘。「東南アジアは昨年、過剰生産だったが、既に在庫は消費されているのではないか。今年生産の落ち込みは越年在庫量を

すり身フォーラムで講演 味の素「トランスグルタミナーゼの利用」 ニチモウ「新しい練製品用機器」

すり身フォーラムの2
日目の21日、味の素の丸



ニチモウの平林史彦氏

味の素の丸山健太郎氏

山健太郎氏は「練り製品
におけるトランスグルタ
ミナーゼの利用―基礎技
術の発展と実用化の進
展」と題し講演。自然界
に広く存在する酵素・ト
ランスグルタミナーゼを

同社独自の発酵技術で商
品化（アクトイバTG）
し、1993年に上市し
た。技術開発により揚げ
かまぼこなど、さまざま
な練り製品に利用され、
質を高める、テクスチャ
改善、利益アップ、コス
ト低減などに応用されて
いる。

（一面に關係記事）
ニチモウの平林史彦氏
は「新しい練製品用機器
として、①花咲蒲鉾成型
機②ニューオーシャン成
型機③タラバスティック
機④天ぷら成型機⑤オイ
ルミストキャッチャーを
ピテオを用いて紹介。製
造機器の開発や技術革新
により、省エネルギー、
省スペース化、労力削減、
生産性向上、安全面など
が進展。

米國やフランスの専門
家による講演もあり、フ
ランスの商品開発の一端
として、バーチャルリア
リティのラボを活用
し、ブランド、価格、サ
スティナビリティ、各社
の商品比較などの手法を
用いて、消費者に対する
力二風味かまぼこのコミ
ュニケーションテストの
準備が進んでいることの
紹介もあった。